

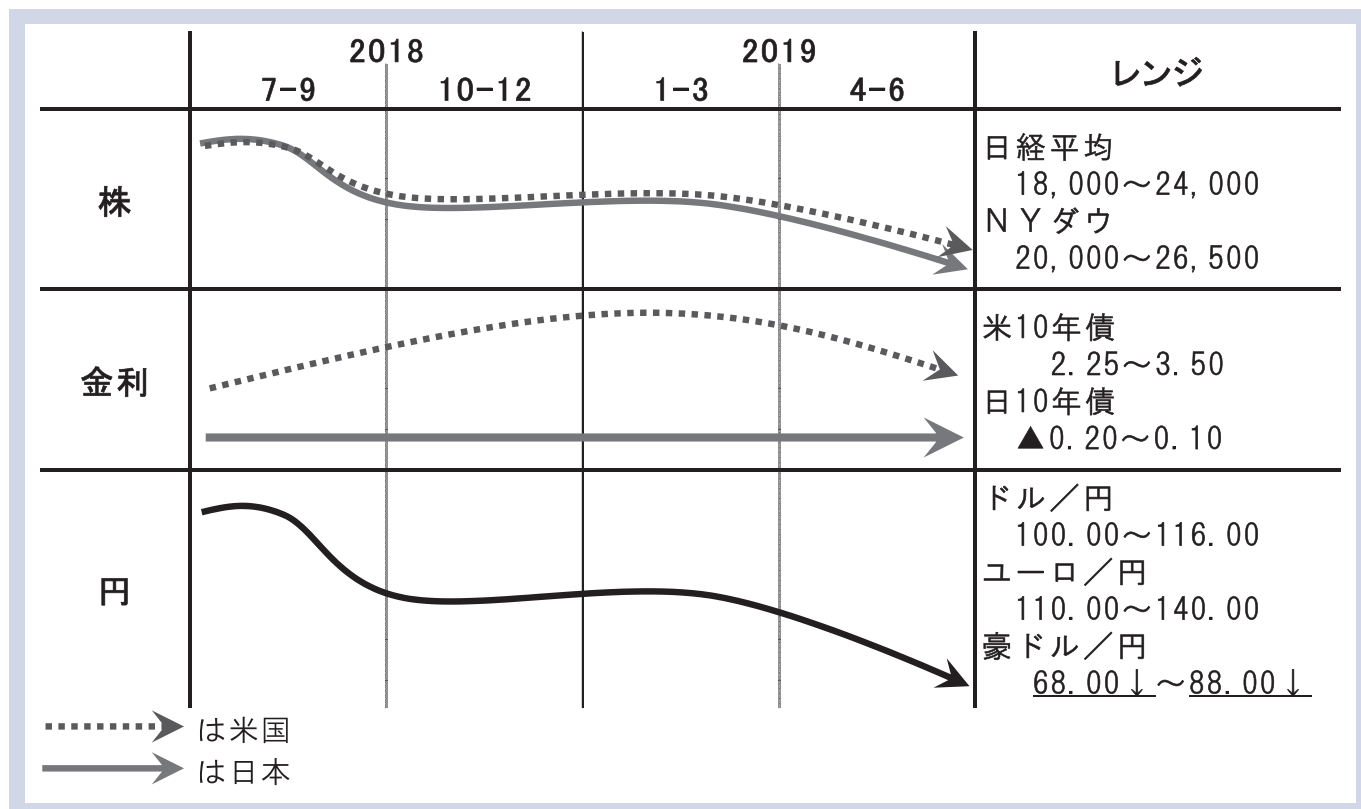
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(7月5日時点)

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	足元で生産活動に足踏みがみられるが、一時的なものとみられる。世界経済の回復に伴って輸出が増加基調で推移することに加え、企業収益の改善を背景として設備投資も持ち直すとみられる。企業部門主導で景気は先行き回復基調で推移するだろう。
② 米国	米国経済は、米中貿易戦争が始まっているものの、雇用・所得、資産残高の増加、減税による個人消費の押し上げを背景に、堅調さを維持する公算が大きい。堅調な景気拡大により労働市場の逼迫が続く中、FRBはバランスシートの縮小や9、12月に追加利上げを実施、緩やかなペースでの利上げを継続すると予想される。
③ 欧州	ユーロ圏経済の減速は、寒波による建設・消費活動の停滞など、一時的な要因が影響。雇用・所得環境の改善が支えとなり、今後も成長が持続するとみられる。ただ、米欧間で貿易戦争への脅威が高まっており、輸出企業の業況悪化が懸念される。物価の下振れリスクが後退したことを受け、ECBは12月末で資産買い入れを終了する。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の自律回復による外需底入れの動きが景気押し上げに繋がっている。米中貿易戦争の行方は、中国への依存度が高いアジア・新興国に影響を与えることが懸念され、今後の行方には引き続き注意が必要である。他方、先進国を中心とする世界経済の拡大は、これらの国々の景気を下支えするとみられる。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません
レンジについては、前月号から変更した値に下線を引いております。(上方修正: ↑ 下方修正: ↓)